

園だより7月

令和8年6月30日
台東区立田原幼稚園
TEL 3842-6477



ヘルプとサポート

園長 和田 万希子

6月は、土曜保育参観、給食参観へのご協力、ありがとうございました。日程が近くなってしまう、ご調整いただくのが大変だったのではないかと考えています。次年度の反省としてまいります。

土曜保育参観には、たくさんの保護者の方においでいただき、「先生の話をちゃんと聞いていて成長を感じました」「子供たちと一緒に保護者も楽しめました」などの感想をいただきました。

今後も田原幼稚園では、子供たちの成長の姿を見ていただけるよう、様々な形での参観や行事の公開を行ってまいります。また、今行っている個人面談では、1学期の成長の姿を保護者の方と共有し、しっかりと連携をとってまいりたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

伸びようとする芽を見逃さず

先週は、曇りや雨でプールには入れない日が続きましたが、そのような日には、色水遊びやシャボン玉など、夏ならではの遊びを楽しんでいます。水で遊ぶことの多い、今の時期の子供たちの大きな課題の一つが着替えです。プールであれば水着に着替え、濡れた水着を脱ぐ、水遊びの後は、下着まで全取り換えする子もいます。

特に濡れた水着、これが一苦勞です。おそらくご家庭でプールに行くとなれば、この濡れて肌にくっついた水着は大人の方で脱がしてあげることでしょう。園でも難しそうなところはもちろん手を貸しますが、担任の先生の話を知ると、もも組さんは、うめ組の時と比べて、「自分でできる！」という子が断然増えているのだそうです。先日はばら組さんのラッシュガードを手伝って脱がせようとしたところ、「あとはできる！」と言われてしまいました。そして、そのあとはちゃんと自分で脱いでみせ、「ほら！できたでしょ」と言わんばかりの笑顔を見せてくれました。

毎日一緒に生活していると、日々の小さな成長に案外気付かないことがあります。大人がやってあげないと何もできないと思っていた子が、いつの間にか一人でできることが増え、自分の力で伸びていこうとしている、でも大人の方がそのことに気付かず、何もできない存在として保護し続けてしまうと、せっかく子供が自ら伸びようとする芽を摘んでしまうことになります。

魚を捕って与える？ 釣り方を教える？

「助ける」に当たる英語には「ヘルプ」と「サポート」があります。目の前に飢えている人がいた時に、魚を捕って与えるのが「ヘルプ」釣り方を教えるのが「サポート」です。もちろん最初は、魚を捕って食べさせてあげていいのです。しかし魚を捕って与え続けたら、いつまでも人を頼ってしまい、自分一人で生きていく力はつきません。子供たちに“魚の釣り方”を教えるのは、教える側にとっても、時間がかかる、忍耐のいることなので、つい「大人がやった方が早い」と思うってしまうこともあります。「できないことをさせるなんてかわいそう」とかばってしまいたくなることもあるでしょう。でも、そこをぐっとこらえる力量が、周りの大人には求められます。

生まれたばかりの赤ちゃんには、泣いたらおっぱいを与え、おむつを替える、抱っこして移動させる、という全面的なヘルプが必要ですが、幼児期の今は、ヘルプとサポートの度合いを切り替えていかなければいけない時期なのです。

周りの大人からのサポートがいらなくなって、めでたく独り立ち、となるまでは、まだまだ遠い道のりです。忍耐のいるサポート役は始まったばかり。幼稚園とご家庭とで連携し、子供たちの伸びようとする芽を大切に、見守り、支え、励ましていきましょう！

1学期間、田原幼稚園の教育にご理解、ご協力を賜り、ありがとうございました。暑さ厳しい日々となりますが、皆様、熱中症には十分にご留意なさって、楽しい夏をお過ごしください。